

【ねがいましては】

第77号

平成7年8月25日

共和珠算学習塾

「自由なのに動けない」

一言で「自由」と聞けば、それはもう子どもたちにとってうれしいことです。自由と聞いてすぐ思うのは、何やったっていいんだという気持ちでしょう。

自由・・・自らを由（よし）とする意味です。子どもたちは常に自由がほしいと思っています。ですがこれは「楽（らく）」になりたいがための自由であるのが現実でしょう。学校に縛られ、その他の習い事に、そして親に縛られ……。なかなか自由な時間を持つことができません。そんな中で見つけた自由を今の子どもたちは遊ぶための「具体物」をかなり使用しています。一見ただで「遊べる」ことがわかるものを使用します。

今回のキャンプも比較的自由な時間が多いように感じました。子どもたちの反応は？

「先生、午後から何やるんですか？」「先生、何もやることがないよ！」などと言ってきます。何をやってもかまわない「自由」を与えられた子どもたちは、先生から「自由だよ」というプレゼントに喜んでいる反面、自由を何にしようかとうろうろするばかりで動けないのです。

毎日、固定化されたレールの上を歩くだけの生活に。自らの意思をなくしてしまったかのような子どもたち。普段から「自由になりたい」という気持ちを抱きながらも、いざ自由を手にとると、さてどうしたものか……。この様子に私は驚きを隠せませんでした。

朝から夜まで決められた動きを強いられた結果、昼寝だって自由の一つなのだということさえ忘れてしまっています。誰かに「遊んでもらう、声をかけてもらう」という指示待ちから、「自らが遊びを見つけ、他へ声をかける」ことへの変化が必要だと感じます。

つまり、「受動」から「能動」への変化が求められます。あらかじめ用意されたレールの上を歩くことは、不安を感じることが少ないかわりに、自由な心を束縛します。レールがなければどこへでも行くことができます。しかし数々の障害物を自らの力で乗り越えるという努力が必要になるでしょう。生きていくこととは？・・・と考えてみると、さて、子どもたちの成長にとって相応しい道とは……。

どちらの道を選び、君は歩んでいくのだろう。今の社会はあまりにもレールが多すぎるような気がいたします。

ちなみに私の教室でも、「先生、次何やるんですか？」と聞きにくる子もいれば、「先生、次、〇〇やってもいいですか？」という子もいます。もちろん後者の声を聞くとうれしい気持ちになります。失敗を恐れずに「自由」に歩いてみましょう。

☆クイズ・・・A君は、はじめ持っているお金の3分の1を使い、次に残りの5分の3を使いました。このとき、おばさんに1,000円もらいました。それから持っているお金の4分の3を使ったところ、残りのお金は450円になりました。A君ははじめいくら持っていましたか。（ラ・サール中）

★9月の予定	1日（金）	この日より時間割がもとにもどります。
	7日（木）	珠算検定試験申し込み締め切り
	21日（木）	4～10級検定試験・・・共和珠算塾
	24日（日）	3級以上検定試験・・・中央商業高校